

## 第2回那須塩原市総合計画審議会

開催年月日：平成23年2月18日

開会時間：午後2時00分

開催場所：西那須野庁舎301・302・303会議室

### 委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	安在隆芳	○	16	酒井芳男	○
2	飯島恵子		17	佐藤一則	
3	生駒憲一	○	18	佐藤友幸	○
4	伊澤昭夫	○	19	塩水常男	○
5	石森則夫	○	20	関谷直人	
6	磯忠昭	○	21	関谷眞夫	○
7	大野博文	○	22	高根沢武一	○
8	岡田幸子		23	田代茂樹	○
9	荻原正寿		24	寺崎政徳	○
10	落合健太郎	○	25	人見みゆ子	○
11	河内賢二	○	26	平山明	○
12	君島理恵	○	27	平山忠	○
13	工藤海查生	○	28	松本勇	○
14	児玉幸弘	○	29	八木沢敏子	○
15	五江渕征子	○	30	山島哲夫	○

## 《 会議の内容 》

### 1. 開会

### 2. あいさつ

《会長》

今回は市民アンケート調査の詳しい結果が出てきているので、調査結果を踏まえまして、これから後期計画をどう進めていくかという、大きな議論をしていくことになるので、よろしくをお願いします。

### 3. 議事

#### (1) 前期基本計画の具体的な施策及び主要事業の進捗状況について

《事務局》

※ 資料1により説明

《会長》

第1次総合計画の各施策には成果指標というものがついていて、この数値と比較してどうかということで、達成度が出ております。中には達成度F（進捗状況0%）ということ、全く出来ていないということもあるが、それは色々な理由があると思う。

成果指標を定めてそれによって進行をきちんと管理していきましょうということが、最初の総合計画を作る時に議論され、それを踏まえて今回全ての成果指標についてこういう形でどこまで進んでいるか具体的な数値を出したということです。

色々な課題があると思うが、F（進捗状況0%）のものもあるし、最終的にE（進捗状況1%～30%未満）とかD（進捗状況30%～50%未満）でとどまるものもある。これ全体を見て気になる点や質問をお願いします。

《委員》

例えば具体的な施策「子育て相談・支援体制の充実」の達成度について、3箇年達成度がC（進捗状況50%～70%未満）で5箇年の達成度見込みがD（進捗状況30%～50%未満）になっているなど、5箇年後に達成見込みが落ちるものがあるが、これについては算出方法か何か違うのではないかと思うが？

《事務局》

具体的な施策「子育て相談・支援体制の充実」については2つの成果指標に基づいて評価をしている。1つ目が「子育て相談センターホームページ年間アクセス数」で、平成17年度の0件から平成23年度の目標2万件という成果指標、2つ目が「子育てサロン開催箇所数」で、平成17年度の8箇所から平成23年度の目標20箇所という成果指標の両方2つの成果指標に基づいて評価を実施している。1つ目の成果指標のホームページ年間アクセス件数については、3ヵ年時点で約5,500件で、残り2ヵ年で6,500件になる見込

みのため達成度は若干伸びる結果になった。ただ、2つ目の成果指標の子育てサロン開催箇所数については3箇年時点で17箇所となったが、その後の平成22年度に1箇所減ることになり、結果としてマイナスとなった。2つの成果指標を合算して計算すると、最初の3ヵ年についてはC評価になるが、5ヵ年を見た時には開催箇所数が1つ減るので評価が落ちたことになる。

《会長》

非常に真面目に計算しているというのが分かる。他にはどうでしょうか。

《委員》

「地域情報化の推進」というところで、2点ほど。

1点目は「デジタルディバイドの解消」について、未だに那須塩原市ではADSLも光も来てない所があると聞いているが、行政として何か対策を考えているのかどうか。NTTはインターネットはユニバーサルサービスではないということから、儲からない所はやらないという話を聞いている。その件について、新潟県と島根県が地域のプロバイダーとタイアップして独自のADSLや無線を使ってデジタルディバイドを解消したという例があるので参考になればというのが1点です。

2点目は情報化社会の基盤づくりで総合計画書の中に光ファイバーの民間への開放ということが書いてあるが、現在の状況と、具体的にどのように今後進めていくのかお聞かせ願いたい。

《事務局》

1点目のデジタルディバイド、いわゆる情報格差の解消の件について、国の補助金を活用し去年から今年度にかけて高林板室ブロードバンドの整備を進めてきました。また、関谷・下田野地区はNTTさん独自でそこを解消するというので、それにより那須塩原市としてはほぼ全域で光ファイバーを通せるという形で基盤整備をしてきたところである。

2点目の民間への開放について、板室高林ブロードバンドの工事が今月完了するが、光ファイバーを所有している市がNTTに貸し出し、来月から供用開始するという形で進めているところである。

《委員》

NTTに開放するのではなく、例えば地元の電気通信事業者に解放することは考えているか伺いたい。

《事務局》

現時点としては、範囲が広いので、NTT以外への貸し出しは考えていない。

《委員》

基本施策「農林業の振興」の主要事業の重点事業の農村振興総合整備事業の進捗状況がC（進捗状況50%～70%未満）、「工業の振興」の主要事業の企業誘致事業がF（進捗状況0%）とである。まちづくりアンケート調査の結果では、いわゆる商業の振興や雇用の促進の満足度平均得点がかかなり低い。特に今こういう産業界、非常に厳しい状況にある。これ

は那須塩原市に限ったことではないと思うが、現状で企業誘致はどのような対応をしているのか、また、市内の工業団地等は埋まっているのか、参考までにその辺をお聞きしたい。

《事務局》

達成状況の評価については、成果指標があるものは成果指標、無いものは予算・決算、もしくは代替指標を用いて検証したものもある。企業誘致事業はF（進捗状況0%）となっているが、全く何もやってなかった訳ではないが評価の数字に基づけば数字が出てきてないということで結果としてF（進捗状況0%）となっている。その他の事業にもF（進捗状況0%）がいくつかあるが、全く何もやっていないという0%ではなく、指標に基づいた評価のために目標値まで達していないものもある。そういったことも含めてご理解願いたい。また、施策や事業を進めるにあたり、その成果指標が適切なかどうか、そういった事も含めて、今後、後期計画を策定するうえでの課題として進めていきたいと考えている。

企業誘致については、市としても企業誘致に関する条例（工場誘致条例）があるので、リーマンショック以降、世界的に非常に厳しい状況があるが、当然、今後十分考えていかなければならない課題である。

《会長》

この成果指標は、前期基本計画策定の時に、出来るだけ全て成果目標を数字で表そうということで作った。成果指標として何が適切かということも議論としてはあったが、数字で表せるものは表そうということで作った。成果指標を見ると、工場の総数や従業員数が増えるということを成果指標とした結果、F（進捗状況0%）となったが、これは多分どこの市町村でも同様と思う。もしこの成果が上がっていたら相当立派だ、ということになるわけだが。その辺は、この総合計画を作った時は、何でも指標で出そうという成果指標が非常に流行っていた時期だった。今回の後期計画は、市役所なり市民が努力する目標として相応しいものを考え、その努力を評価出来るような指標ということも審議会の中で検討をしていく必要があるのではないかと思う。

《委員》

具体的な施策「スポーツ施設の整備」が3箇年達成度も5箇年達成見込みもF（進捗状況0%）であり、これはやる気が無いとしか受け止めようがない。

それから「スポーツイベントの開催と誘致」についてスポーツイベントの規模をどんな風に考えているかお聞きしたい。

《事務局》

「スポーツ施設の整備」の成果指標については「スポーツ施設の利用者数」としており、55万人を目標としていたが、利用者数は減少しており、5箇年達成見込みも51万人である。結果的には目標が達成出来なかったということでFという評価となったところである。

また、スポーツイベントについて、具体的に挙げた事業としては、関東学生トライアスロン大会、ハーフマラソン大会、スポレク祭実行委員会、等々の事業である。

《会長》

今のところは「スポーツ施設の整備」を施設の利用者数で評価することが成果指標としていいのかどうか、ということになると思う。今委員さんが言われたとおりスポーツ施設の整備の評価がFといったら何もしていないのかと思ってしまうが、今の事務局の話だと利用者数が55万人を目標にしたが51万人くらいに留まっているということだと。そうすると、指標としてはFになってしまうということだと。

今回の後期計画もやっぱり進捗評価をしなければいけませんから、どういう風に評価したらいいかということも議論したいと思います。

《委員》

資料に「主要事業の達成状況一覧表」がある。主要事業になっているのに、そうでないところの方が意外に5年後の達成見込みがA（進捗状況100%）が多かったりする。せっかく主要に挙がっているのであれば、5年後の達成見込みは評価がA～Bの方がいいと思う。

《会長》

後期計画でもどういうものを成果指標として取り上げていくかということはこの場で議論したいと思いますが、他にいかがでしょうか。

《委員》

数値的な評価のほかに、例えば、意識の向上がされたとか、相互連携できたとか、隠れた内容が分かるよう、備考欄などに書くなどで明記すると非常に分かりやすいかな、というのが1点。

それから、5年のプラン（Plan）を立ててドゥ（Do）で行ってチェック（Check）をする上で、やはり次の課題を見付けるための成果の評価があるべきだと思う。

## （2）市民アンケート調査の概要について

《事務局》

※ 資料2により説明

《委員》

アンケートの回収率33%ということですが、この地域は人口11万7千人、世帯数4万4千世帯だと理解しているが、だいたい4,000とれればいいという風に私は理解していたが、3,376通の回収はそれに近い数字である。この統計自体はアウトソーシングされたのか、あるいは市で直接行ったのか聞きたい。

それから、15地区に分けているが、出た地域がどれくらいの構成比を持って出されたのか、参考に教えていただきたい。

《事務局》

資料には載せていないが、地域別の回収状況は把握している。公民館ごとに15地区に、前回のアンケートと地区は同様に区分して抽出したが、全体の回収率33.76%を平均とした時に、今回、豊浦地区と東那須野地区については比較的高い数字が出ている。また、厚崎

地区、稲村地区、鍋掛地区、西那須野地区内の狩野・南・西・大山、塩原地区の塩原では平均を下回ったという回収率であった。なお、今回のアンケート対象者の抽出については、まず住民基本台帳の登録台帳から行政区ごとに一覧をとり、まずは約 11,700 近い方を 9 人に 1 人抽出した。その後同一世帯者を外して再度抽出をかけ、結果的に 1 万人とした。ですから第 1 から第 15 地区の中で当然その地区の人口が多いところは発送部数も多く、人口が少ないところは発送数も少ないというような中で、先ほど挙げた地区の方々からの回収率は全体の平均を下回ったというところである。

今回のアンケートの中身については事務局で精査・作成し郵送をしました。分析等、データの入れ込み等については業者に委託をした。

《会長》

地域で回収率は違うと思うが、もっとも低いところはどのくらいか。

《事務局》

地区ごとの 15 地区の回収率で言うと、第 5 地区の鍋掛地区が 1 番低くて 26% の回収率となっている。その他はだいたい 30～35% くらいである。

《会長》

1 番低くてもそのくらいならあまり違いが無いので大丈夫だと思う。

《委員》

大変いいアンケートの結果が出たと思うが、この結果を見ると「雇用の促進」などは重要度が高くて満足度が低い。こういう結果を元に、何かアクションを起こすことは何か考えているのか。

《事務局》

この結果で満足度・重要度・優先度が明らかになってきたので、これを役所内の専門部会にフィードバックし、これを参考に後期計画の施策・事業を組み立てていく、という流れでいきたいと考えている。ただ、先ほど委員さんが言われたように「雇用の促進」が市民にとって一番満足度が低くかつ重要だというのが明らかになった訳だが、この施策に関しては国の施策的なものもあるので、市として後期計画の中でどういうことが出来るのか、という観点で盛り込んでいきたいと考えている。

《委員》

私も非常にいいデータが出たと思う。問 6 の「那須塩原市は住みやすいと感じていますか」というところで、第 14 地区が、住みやすい・どちらかと言えば住みやすいという数字が、全体としてみると 1 番低い地区になっているが、これに対して、地域別満足度平均得点表で第 14 地区を見ると、その他の地区に比べると、どちらかという色の付いている項目（政策ごとに最も満足度が低い地区）が少なく、ここはあまりリンクしていない印象があった。

それともう 1 点、高齢の方が重要視し、求められている項目に「高齢者福祉の充実」が挙げられているが、先ほどの資料 1（前期基本計画達成状況報告書）の主要事業の達成状況

一覧では、施策3「高齢者福祉の充実」のという項目に主要事業が二項目しか挙がっていないで重点事業は片方のみ、5年後の達成見込みもB（進捗状況 70～100%未満）というあたり、この辺を今後どうリンクさせていくのかをお聞かせいただきたい。

《事務局》

市民の望んでいることと役所のやっていくことが、できるだけ乖離しないようにというのがこれから後期の課題になってくると思っている。それから、先ほど、第14地区、塩原地区の温泉街の話があった件で、住みやすいという率が一番低く、それぞれの施策ごとの地区別満足度平均得点表を見ると、「観光業の振興」というのが突出して低いというのが数字で表れている。この辺も課題であると感じている。

《会長》

では、全員に発言してもらおうよう、まだ発言してない方、一言ずつお願いします。

《委員》

回収率が低い中、こうして結果を表を作っても全員の意見ではないのかなとも思うが、満足している人が多いからあまり意見が出ないという風に思う。

《委員》

アンケートで「住みやすい」と回答している方が多いということに凄く良かったと思っております。ただ、住めば都という言葉もあり、住んでいるところが住みやすいという回答にもなりがちなのかなとも思う。私は子供達の元気な明るい笑顔がたくさん、あちこちに見られるような街になったらいいと思っている。そういう視点からこれから意見を進めていければいいと思っている。

《委員》

アンケートで農業や畜産の振興の部分を見ると、どちらも満足度は高いというような評価を得ているが、農業情勢厳しい中で、今後とも引き続き重点的に取組まなければならないと思っており、今後それらについて検討していきたい。

《委員》

会長と他の委員の方も言われたとおり、成果指標が、成果を正しく表しているのかと。例えば施策、あるいは主要事業でA（進捗状況 100%）になっても、元々の目的が達成されていないのではないかという事も、たくさん見受けられるような気がする。

《委員》

アンケートで問13行政サービス水準と市民負担についての質問で、自己負担が増えてもサービスを充実して欲しいと考えている人が増えているということは、住民参加型になっているのかなと感じた。

それから問11の優先に取り組むべき施策事項についての質問で、「学校施設・設備の整備」や「自然環境の保全」というのが低くなっているのは、60代70代の方の回答が多いからかなとも思った。「自然環境の保全」は大切だがちょっと低い。

《委員》

このアンケートの結果は、年代によって答えていることが大分違うと凄く感じた。若い方が求めていることと、高齢の方の求めていることが全く逆になっているところが多かったのでこれを行政の方で調整していくのは大変ではないかなと思う。これだけ細かいデータになってしまうと逆に細かすぎて見落とされるものもあるのではないかなと思う。その点67ページの指標のグラフは非常に分かりやすく、これについてのことが要約されているという印象を受けた。

2点目に、先ほど話に出た14地区に住んでいるが、行政の中の細かい点で概ね満足はしているのではないかなと思うが、どうしても地理的に、住みやすいかイエスカノーかで答えてくださいと言われれば、どうしてもノーの方に答えざるを得ない状況ではないかなと思う。特に冬場、雪深いということで、お年寄りや、若い方たちは西那須野、黒磯地区に居を構えて引っ越して行く方が非常に多いところなので、もう致し方ないのかと、住んでる者としては感じている。

3点目に、観光業に携わっている者からの立場として、今本当に観光業が落ち込んで外国人客の受け入れということも非常に叫ばれており、実際に日光地区などではかなり積極的に特に中国人観光客の受入態勢を整えつつある。それに比べてどうしてもこの那須塩原は遅れをとっていると感じる。アンケートでも重要度の中で1番低かったのが国際交流の推進。そういったところを今後少しでも改善していただきたいと思う。

《委員》

アンケートの件で、10代20代の若い人達の意見があまりにも少なかったのが残念だった。出来れば今後は若い人達の意見聞けるような工夫や方法をお願い出来ればと思う。

《委員》

前期基本計画達成状況報告書の中で、重点事業にはなっていないが、例えば施策「消防団の充実・強化」など全く進捗状況が無いような部分もある。アンケートの結果で、子育て支援とかそういうところの市民が重要と認めているところが重点じゃなかったところもあると思うので、是非ともそういうところも目を向けて見直していただければと思う。

《委員》

先ほどから雇用促進という課題の意見がたくさんあったが、私も同感である。工場誘致による雇用促進や観光客の誘致など雇用促進策は多々ある。那須塩原市当地方においても、東北新幹線、また、高速道路等、JR、国道4号線が通っており、かなり明るい材料がある。

《委員》

芸術や文化の振興の関係で、評価がF（進捗状況0%）だが、満足度は高い。関係団体などの組織は地方文化の伝承に努力しているが、この達成度では評価があまりよくないので、どこを例としたのかお知らせいただきたい。

《事務局》



この芸術・文化事業の充実は、成果指標が設定してあり、市内の文化施設を一年間に利用した延べ人数が1つの成果指標として挙げてある。92,000人から最終目標を10万人として設定したが、現実的には減っていて、結果的に達成度としてはF（進捗状況0%）となった。この成果指標が適当か、後期計画では担当課と詰めていきたいと考えている。

《委員》

普段は西那須の第8地区に住んでいるが、駅も近く本当に環境の良い所だと思っているが、本庁がまだ遠く感じる。正直黒磯がまだ遠く感じる。そこで黒磯に行く道路が4号線とあと遅沢橋の通りがメインでいってはいるが、やはり黒磯に結ぶ道路整備など進めていっていただきたい。公共工事はあまりいい評価はされないが、まだまだ地方は社会資本整備が必要だと思う。また、街中の市街地を見ますと、通学路の歩道設置が出来てないところ、危険箇所がたくさんあるので重点的に進めていっていただきたいと思っている。それと個人的な感情だが、合併して何年か経つが、まだ塩原・黒磯・西那須という心の壁があると思う。精神面のことだがそういう壁を取り払って、同じ那須塩原市内の市民として一体になってまちづくりを取組んでいくことが大事かと思う。まちづくりは人づくりからだと思っているので、そういったものも考えていきたい。

《委員》

ご存知のとおり観光協会は、黒磯と塩原と西那須と3つに分かれているが、一応一体となって進めており、今年度は那須郡全体での、広域での何かをやろうと、そんなところで動いている。

《委員》

アンケートを見て、大変参考になった。その中で庁舎の利用について、移動の方法が自家用車が圧倒的に多い。それでは自家用車が無い人はどうするか、これらの方法を考えていかなければならない大きな問題である。また、住民の人口密度と比較して利用割合の多い庁舎などから、庁舎のあり方なども今後検討課題になる。併せて支所へ行って、本庁に行かなければ用が足りない、というようなことがあるが、やはり支所は支所で解決出来るような、方策も課題である。

《委員》

先程観光の話が出たが、観光を市で盛り上げていったらどうかと思う。外国人の受け入れなどの話も出ましたが、そういうもの積極的に進めていって、お客が来て、お金を落として潤う、そのお金が落ちれば那須塩原市全体にも回って来るわけだから積極的に進めていったらどうかと考える。

《委員》

塩原の観光協会会長なんで、行政じゃないんですが、大変ありがたいお話をいただいた。海外から来るお客様の誘致を私どもも行政の方も重要に考えている。ハンターさんとか韓国の方がよく来られるゴルフ場もたくさんあり、行政と連携して、インフォメーションを多言語化したり、といった基盤整備などをやっている途中である。

《委員》

先程、第14地区の住みやすさの件で、自然環境というようなことで仕方ないというようなお話があったが、深読みしていくと、例えば那須塩原市に「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか、というのは他地区と遜色なく、非常に自分の土地には愛着を持っている。それに反して現在の市政、まちづくりにどの程度満足していますか、というのは1番地区的に低い。この辺から住みやすくないということが出ているのではと私は考えている。

《委員》

先ほど観光協会の話がでたが、商工会も、黒磯と塩原が合併した。観光協会と商工会が一緒になって事業を進めている中で、行政の方でも農観商工連携事業を立ち上げている。1つの産業という中で、当然JAも、商工会も、観光協会も、あらゆる産業界1つになって、活力を創出するまちづくりの中の具体的な施策なり主要事業の中に、そういうことも十分考えていただきたい

《委員》

畜産業の振興の部分で、現在ミルクロードを立ち上げて進行中であり、これから成長期、熟成期と歩んでいくところだが、早急のPR活動が必要と感じているところである。そうすればこの地の売り物である自然とか本土一の酪農地帯というアピールとか、そうすればもう少し観光客も来て発展がするのではと感じている。

《会長》

先程、年齢層によって意見が違うという話が出たが、重要度と満足度を全体で平均するとバラけてしまう。例えば、若い人にとっては子育てが重要だとしても、高齢者はそうでないと、平均すると下がってしまうので、それは少しバラして考えていただきたい。

《副市長》

第一次の総合計画の前期基本計画を策定した当時、計画を作った後の進行管理が大切ですよといったお話を委員の方からいただいてきた経過があった。本日、評価をした中で、この第一次総合計画の成果指標っていうのは本当にこれで良かったのか反省をしているところである。評価が出来ない成果指標といったものがあったんだという感じがしている。これから1年をかけ新しい計画を作っていくので、その辺も踏まえ、また色々なご意見をいただきながら、私ども行政がやれるもの、民間の方をお願いするものを仕分けしながら、今後の総合計画に反映が出来れば、という風に考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

《副市長》

総合計画は、どうしても総合計画というように、全ての施策を網羅して作るものなので最後出来上がるとつまらない計画書になってしまうのが正直なところである。全国見ても素晴らしいというのはそうそう見ない。前回策定時も、最初は那須塩原市らしい何かを思い切って打ち出せないのか、という議論をしたが、結果として各部門が出てきた物をまとめ

て作り上げたという経過がある。ただし、これからは、地方分権が叫ばれている中で、那須塩原らしい、イメージ出来るような施策展開をしないといけないのではないか。もちろん総合計画だから、年代別の要望もあり、様々な施策を網羅をしないといけないが、これは、というものを重点的に進めていくことも必要ではないか。そうすると、全国に那須塩原の名前が知れてきて、色々な面に波及していくのではないか、それで、もう少し目立ってもいいのではないかという風に思っている。どうぞよろしく願います。

《会長》

副市長お二人の力強い言葉がありましたので、審議会としても一生懸命議論していきたいと思えます。

(3) 後期基本計画の策定スケジュールについて

《事務局》

※ 資料3により説明

4 閉会